

製鉄記念室蘭



訪問リハ終了者フォロー

介護予防教室を初開催

日常生活をより意識したプログラムに

室蘭市の製鉄記念室蘭病院（松木高雪理事長、前田征洋院長・347床）は、訪問リハビリテーションセンターと地域包括支援センターとの協力を得て、訪問リハビリの終了患者をフォローする介護予防健康教室を初めて開催した。

地域の介護予防的な活動推進、リハビリ効果の理解促進をはじめ、患者が役割を持って活動に参加できる場所を提供するのが狙い。

教室ではリハビリ後の身体状況等を評価し、必要に応じて個別訪問、サービスマンに結び付ける巡回型の継続支援を進めている。今回は11月末まで月2回実施する予定だ。

参加者は毎回10人程度。運動の効果や有用性を伝え、生活動作を取り入れた指導により、自主的に訓練できるように促す。

さらに運動器機能、閉じこもり、認知症等のチェック、FAI評価を行うとともに、体調、健康状態の変化、痛みや転倒の有無、最近の出来事（うれしかった、楽しかった、不安、伝えたい等）を記入する健康教室ノートも活用。質問や相談等を受けながら、日常生活をイメージしやすい指導法により個別に支援していくのが特徴だ。